

ねじれ抵抗性改善型排水性混合物に関する特記仕様書

平成17年4月1日

この特記仕様書は、排水性舗装を実施する場合に、交差点部を中心としたタイヤのねじれ力等による骨材飛散現象及び交通加重によるわだち掘れを抑制することを目的とした「ねじれ抵抗性改善型排水性混合物」を使用する際に適用する。

(1)ねじれ抵抗性改善型排水性混合物の性能規程と、ねじれ試験方法は表-1及び表-2のとおり。

表-1 ねじれ抵抗性改善型排水性混合物の性能規程

項目	性能規程値
骨材の最大粒径 (mm)	13
空隙率 (%)	20 程度
安定度 (kN)	7.84 (800 kgf) 以上
動的安定度 (回/mm)	9,000 以上
ねじれ試験 (mm)	3.0 以下

表-2 ねじれ試験方法

試験条件	仕様
回転半径	5.7cm(タイヤの中心に対して)
回転速度	10.5 回/分
測定回数	1,260 回
測定時間	120 分
測定項目	変位量 (mm)
測定箇所	供試体1回転時に90° 毎に定点で4箇所 およびその他43箇所任意に測定
試験温度	60℃ (気中)
使用タイヤ・載荷荷重・接地圧・養生時間	ホイールトラッキング試験同様

(2)浸透水量については、1,000ml/15sec以上とする。

(3)上記の性能以外に疲労破壊輪数、塑性変形輪数、平坦性の性能規定については、「舗装の構造に関する技術基準」で定めるとおりとする。

(4)ねじれ抵抗性改善型排水性混合物の施工については次のとおり。

○ ねじれ合材は、高温時の耐久性を向上させた排水性アスコンであるため、一般の排水性アスコンと比較して10℃程度、高い温度で舗設の各工程を行う必要がある。

また、ジョイント部が特に温度低下をまねく関係から、下記項目に留意して施工すること。

ア 徹底した温度管理を行うこと。特に冬期については、合材運搬を考慮した温度管理を行うこと。

イ 舗設時は、敷均し後速やかに転圧を行うこと。(特に人力施工等)

ウ 大型車両の走行軌跡方向の施工ジョイントは、なるべく避けること。

エ やむを得ず上記の箇所に施工ジョイントが生ずる場合は、監督員と協議しジョイント部の補強対策を講ずること。(樹脂モルタルや特殊乳剤等)

(参考) 温度管理の目安

混合温度	敷均温度	初期転圧温度	2次転圧温度
180℃±10	160℃以上	150℃以上	100℃±10